

学報

第442号

平成19年12月号

平成20年1月15日

東京芸術大学

(事務局総務課発行)

目次

諸報

- ・大学院映像研究科アニメーション専攻の開設について 2
- ・東京芸術大学大学院美術研究科博士審査展の開催について 2
- ・第2回藝大アートプラザ大賞入賞作品展の開催について 3
- ・取手アートパス2007の開催について 3
- ・ポケットフィルム・フェスティバルの開催について 4
- ・「光のおぼけ煙突」の設置について 5
- ・「益子義弘展－住景－」の開催について 5
- ・国公立5芸術大学連携協定書の締結について 6
- ・「千住 Art Path 2007」の開催について 8
- ・井野アーティストヴィレッジの開設について 8
- ・平成19年の掲載新聞記事等について 9
- ・職員研修 12

人事

- ・人事異動 13

関係法令等

- 14

学内規則等

- ・東京芸術大学大学院学則等の一部を改正する学

- 則等の制定について 15
- ・東京芸術大学音楽学部国際対応委員会要項の制定について 18

諸会議

事務局

- ・保健管理センター運営委員会（12月3日） 20
- ・役員会（12月6日） 20
- ・学生支援室留学生部会（12月6日） 20
- ・国際交流室（12月14日） 20
- ・企画・評価室（12月18日） 20
- ・教育研究評議会（12月20日） 20
- ・役員会（12月20日） 21

美術学部

- ・美術学部人事委員会（12月5日） 21
- ・美術学部運営委員会（12月5日） 21
- ・美術学部教務委員会（12月6日） 21
- ・美術学部入試運営委員会（12月13日） 21
- ・美術学部学生生活委員会（12月13日） 21
- ・大学院美術研究科委員会（12月13日） 21
- ・美術学部教授会（12月13日） 21

音楽学部

- ・音楽学部連絡協議会（12月6日） 22
- ・音楽学部学生生活委員会（12月13日） 22
- ・音楽学部教務委員会・学位委員会（12月13日） 22
- ・音楽学部芸術活動推進委員会（12月13日） 23
- ・音楽学部教授会（含・研究科委員会）（12月13日） 23

大学院映像研究科

- ・大学院映像研究科教授会（12月13日） 24

大学美術館

- ・大学美術館運営委員会（12月13日） 24

演奏芸術センター

- ・演奏芸術センター運営委員会（12月3日） 24

芸術情報センター

- ・芸術情報センター運営委員会（12月10日） 24

藝大アートプラザ

- ・藝大アートプラザ企画推進室（12月12日） 24

- 大学日誌 25

諸 報

— 大学院映像研究科アニメーション専攻の開設について —



平成20年4月に大学院映像研究科アニメーション専攻を設置することとなり、12月4日（火）、事務局第2会議室において記者発表が行われた。

平成17年度に開設された同研究科は、映像メディア全般の創造性を追求するため、コンテンツ創造と、人材育成、教育・研究の総合的な拠点となることを目指し、修士課程映画専攻・メディア映像専攻、博士後期課程映像メディア学専攻を順次整備してきた。

記者発表には、宮田亮平学長、藤幡正樹研究科長等が出席し、設置内容・目的や専任教員予定者の紹介等が行われた。

新設されるアニメーション専攻は、長い歴史的な文化背景を持つアニメーション表現を芸術として捉え、加えて我が国におけるアニメーション表現の独自性を国際的な視野から評価し、その自立的発展を実現しつつ、創造性豊かな人材育成、教育研究を行うとしている。また、「芸術表現」「物語創造」という2つの観点からアニメーションを探究する分野を設け、調査・研究から制作、さらに発表（公開）までを含めたプロセス全体を一貫して有機的に進めるプログラムを組み、映像表現としてのアニメーションについて、高度で総合的な教育研究が可能になるカリキュラムを実践するとしている。

募集定員は16名。

— 東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展の開催について —

12月4日（火）から16日（日）まで、大学美術館において東京藝術大学大学院美術研究科博士審査展が開催された。

大学院美術研究科では、作品を主とする「芸術」という専攻領域における博士学位授与の在り方について調査・検討をしており、このプロセスの一つとして、従来、研究領域毎に学位審査を行い、例年2月に開催している卒業・修了作品展で作品を展示していたことを見直し、今年度から、学部及び修士課程の学位審査、作品展示と切り離して、全研究領域を一堂に集め、「博士審査展」として公開することとした。

本展では、会場に学位審査対象となる「作品」と「論文」が展示され、さらに、連日、学生の論文発表と口頭試問審査が公開で行われた。

会期中の入場者数4,587人。（入場無料）



— 第2回藝大アートプラザ大賞入賞作品展の開催について —

12月4日（火）から24日（月）まで、第2回「藝大アートプラザ大賞作品展」（作品テーマ「生命」）が、藝大アートプラザにて開催された。これは、学生の制作活動の成果を広く社会に発信するため昨年度から実施している学内アートコンペで、厳正な審査を経た入選作品を展示、販売するもの。2回目を迎えた今回は、総勢34名（69点）の応募の中から選ばれた29名（64点）の作品が会場を飾った。

藝大アートプラザ大賞は、大学院美術研究科修士課程で彫金を専攻する満田晴穂さんの作品「自在陸宿借」が受賞。12月4日（火）に行われた授賞式で、宮田亮平学長から目録を手渡されると、「（受賞に）驚いています。生きていない金属に命を吹き込むつもりでいつも制作しているので、今回のテーマ「生命」は、もともと自分自身の制作コンセプトと合致していました。生き物の生態に準じた動きがちゃんとできるように、ヤドカリの体は貝の中に収まるようにしてあります。ぜひ、いろいろな方に見に来ていただきたいです」と喜びを語った。



「自在陸宿借」満田晴穂

— 取手アートパス2007の開催について —

12月5日（水）から9日（日）まで、取手アートパス2007が開催された（一般公開は7日から）。アートパスとは、毎年冬に行なわれている学生主体のアートプロジェクトで、一年間の制作の成果を発表する場であるとともに、学生主体のワークショップやゲストを招いた講演会など多彩なイベントを催して、より積極的にアートを介したコミュニケーションの機会をつくる場でもある。今年は例年以上に学生が主体的に取り組み、絵画科油画専攻および先端芸術表現科の学生たちが一丸となって企画・運営を行なった。

「越える、芸大、ガツンと全開！」をサブタイトルとした取手アートパス2007は、大学という垣根をできるだけ低くし、地域・一般の方との交流活性化に注力。特別企画として無審査、全作展示の公募展「藝大アンデパンダン展」を開催し、学内外の枠を取り払った。展示された一般公募作品と学生作品の総数は実に456点にのぼり、過去最多となった。

6日には関連イベントとして、クリエイティブディレクターの箭内道彦氏を招き講演会を開催（美術学部同窓会「杜の会」主催）。テレビCM作品の紹介を交えながら、CM制作に関する話や学生時代の思い出などを披露した。

7日から9日には、佐藤時啓准教授とRayprojects（三友周太）によるサイトシーイングバスカメラが取手駅と取手校地を往復。バスの外装のテーマは「芸大生の自己紹介」で、学生たちの作品や普段の生活をとらえた写真が、バスの外壁に並んだ。

最終日に行われた「未来の美術大学とは？」をテーマとするラウンドテーブル（ゲスト・本学教員・学生を交えての討論会）は今年で2年目を迎え、秋元雄史氏（金沢21世紀美術館館長）をゲストに、「美大受験」「教育プログラム」「進路」といったテーマで意見が交わされた。



学生ワークショップ「冬の取手に花を咲かそう！」

その他、一般来場者と本学教員がアートについて自由に語り合うアートカフェ、学生ワークショップ「冬の取手に花を咲かそう!」、ゲスト作家(小林考亘氏、斉藤美奈子氏、袴田京太郎氏)を招いた学生作品の公開講評会などが開かれ、3日間の一般公開中、約2000人が来場した。

— ポケットフィルム・フェスティバルの開催について —

携帯電話による映像表現の発展を目指し、12月7日(金)から9日(日)まで、ポケットフィルム・フェスティバルを開催した。これは、日本初の携帯電話を撮影機材とした映画祭。

ポケットフィルム・フェスティバルは、2005年にフランスのフォーラム・ド・イマージュが世界に先駆けて開催し、2007年6月にはその3回目がボンビドゥー・センターで開かれた。

2007年9月に本学とフォーラム・ド・イマージュが国際交流協定を締結し、このフェスティバルを世界規模で発展させるため、横浜でも開催する運びとなった。

ポケットフィルム・フェスティバルの大きな特長は、携帯電話を用いて制作された作品が大きなスクリーンで上映され、鑑賞するといった形態にある。さらに今回の横浜での映画祭ではそれに加え、携帯電話の画面で映像を映し出す「モバイル・ディスプレイ部門」を新たに設けた。

大賞を受賞した「720/24」は、東京の風景やそこに生きる人々の24時間を、時計の短針の角度に合わせて携帯電話を傾けて撮影した作品。ディスプレイそのものを手に持って見るという鑑賞スタイルを想定した新しい表現の可能性を提示する作品で、映画祭の革新的な目論見が生み出した成果の一つとして注目された。



— 「光のおばけ煙突」の設置について —

足立区千住の東京芸術センター前広場に、昨年引き続き「光のおばけ煙突」が設置され、12月9日（日）から点灯された。これは、かつて千住桜木町にあった東京電力千住火力発電所の4本煙突（見る角度によって1本から4本まで変わることから「おばけ煙突」の名で広まり、昭和39年に取り壊されるまで愛され続けた千住のまちのシンボル）をモチーフとしたモニュメントで、足立区からの委託を受け、美術学部彫刻研究室が制作したもの。今年も、昨年制作したモニュメントの台座部分に、足立区内在住の子どもたちを対象とした講座「光のおばけ煙突に君の作品を飾ろう～渡邊五大先生と作る光のイルミネーション～」の参加者や本学学生などが作った、スタンドグラスのような光のイルミネーションを取り付けた。

宮田亮平学長、近藤やよい区長の出席のもとに行われた点灯式でモニュメントに光が灯されると、巨大な煙突のように上空に伸びる光の柱に加え、新たな輝きを見せる台座部分のイルミネーションが「光のおばけ煙突」の美しさを増大させ、参列した200名を超える区民から感嘆の声と拍手が起こった。

点灯式では音楽学部学生による金管五重奏の演奏も行われ、光と音のコラボレーションを堪能した参列者から盛大な喝采があった。千住地域の冬の風物詩となってきたこのモニュメントは、来年1月26日（土）までの毎日、夕方17時から10時までの間点灯される。



— 「益子義弘展—住居—」の開催について —

今年度で退職される益子義弘教授の作品を展示し、その業績と研究成果を紹介する展覧会「益子義弘展—住居—」が、12月10日（月）から23日（日）まで大学美術館陳列館で開催された。

本展では、「住居」を中心に益子教授の業績が模型やパネル等で紹介されたほか、学生と共に行なった「世界の民家に見る気候生効果調査」の記録を集め、イラン、ペルー、スペイン、ベトナム、フィンランド等の民家調査の成果も併せて展示された。

益子教授は、本展開催にあたって次のようにコメントを寄せている。

「たとえばささやかな住居の設計に取り組むとき、それが日々の生活の利便をつつがなく支えることにまずは意を注ぎながら、日常の奥に持つ生の実感をどこかで受け止められる場所でありたいと思い巡らせます。それを藝大という創作集団の場に居ることの中で、おのずから考えさせられることでした。

本学の退任にあたっての本展は、これまで折に触れて取り組んだ「日常の住まい」を中心とし、またその中に、ある時に関わりを持つことになった「日々の最後を送る場」への思索を添えて、見ていただくことに致しました。」

開催初日には、記念レセプションが陳列館内で行われ、宮田学長、六角美術学部長、手塚教授（日



本画)の挨拶に続き、益子教授が本学での教育研究活動や、この展覧会への思いを語った。また15日(土)には益子教授によるギャラリートークが行われ、併せて音楽学部学生による記念コンサートも開かれた。

会期中の入場者数1,813名。(入場無料)

— 国公立5芸術大学連携協定書の締結について —

12月12日(水)、本学は、金沢美術工芸大学、愛知県立芸術大学、京都市立芸術大学、沖縄県立芸術大学とともに、日本の芸術文化の発展と心豊かな未来社会の醸成のため、芸術の果たす役割を広く社会に伝え、芸術教育研究環境の向上などにおいて協力関係を一層強化していくことをうたった「国公立五芸術大学連携協定書」を締結した。

この協定に基づいて、五芸術大学は今後、学生・教員の相互交流の可能性を探り、また作品制作や演奏などの活動を活性化させるため、論文だけでなく実技を重視する学会「芸術表現学会(仮)」の設立を目指すとしている。



国公立五芸術大学連携協定書

まえがき

新世紀が明けて10年になろうとしている。ちょうど100年前には、西欧では新しい芸術の波が澎湃と沸き起こり、その波は世界に広がっていった。実際、20世紀ほど、人間の精神文化における芸術活動の意義が強く意識された時代はなかった。

また、この100年は、わが国では、芸術教育について学校という近代的な教育研究組織が確立した時代であり、時代を画する芸術家だけでなく、そこから続々と誕生した俊才・英才が、芸術文化の礎を築き上げていった。戦前にあつては美術学校や音楽学校、戦後では芸術大学、美術大学、音楽大学の存在なくしては、わが国の芸術文化の営みもその発展もあり得なかったし、これからもあり得ないだろう。

これらの大学は、その特性から小規模で集約的な組織形態をとってきた。これは、それが芸術文化の担い手であるという性格に合った必然的な組織形態だからである。そこで行われる芸術教育は、合理的知的概念の理解や伝達にとどまるものではない。むしろ磨き上げた直感知に支えられた創造的心の構えを形成し、その作意を現実化する技を育むことに注がれる。それを密に導くことこそが、この種の大学の役割だからである。

いうまでもなく、芸術活動は人間固有の活動である。それゆえに恒常的に維持されるべきものが存在し、それが芸術大学の存在意義を確立してきたと言える。同時に、それが存在することは、文化的な社会の重要な表徴でもある。のみならず、新世紀を特徴づけるグローバル化した高度産業技術情報社会にあつても、鍛え上げられた感性を重視する芸術大学の教育研究は、知の集積を方向付け、豊かに開花させる役割を果たすことになるだろう。その意味でも、芸術大学の教育研究が果たすべき役割は、かつてないほどその重要性を増しているのである。

芸術大学は、これまで個別に地域性や個性を生かして芸術文化に貢献し、社会に貢献する根幹的役割を果たしてきた。しかし、今後、日本や世界の芸術文化の発展と心豊かな未来社会の醸成のためには、それぞれの活動にとどまらず、連携を深め、その活動をさらに活性化させることが求められる。

芸術の様態は変化することがあつても、その根幹にある人間精神の顕れとしての芸術は変わることがない。今ここに、五芸術大学は、連携・協力を深め、芸術文化を支える根幹的な存在として、これからの社会に大きな貢献を図るべく協定を締結するものである。

本文

東京芸術大学、金沢美術工芸大学、愛知県立芸術大学、京都市立芸術大学、沖縄県立芸術大学の五芸術大学は、わが国における芸術教育研究を担う根幹的な機関として、芸術文化の更なる充実発展を求めて、芸術の不易に深く思いを致しながら、伝統を継承しつつ、新たなる道を模索し、芸術創造の源としての役割を果たすべく、以下の精神に基づき、ここに連携するものである。

- (1) 地域に根ざしつつ、芸術の高等教育の根幹を形成する大学として、日本の芸術文化の発展に寄与すべく、連携して協力すること。
- (2) 日本の芸術文化を世界に発信するため、それぞれの個性を生かし、連携協力すること。
- (3) 心豊かな社会環境醸成のために、連携して協力すること。
- (4) 芸術をめぐる教育研究環境の改善向上をめざして、連携して協力すること。
- (5) 芸術の意義の理解を普く広げるべく、連携して協力すること。

この協定書を5通作成し、各大学が各1通所持する。

平成19年12月12日

東京芸術大学長	宮田 亮平
金沢美術工芸大学長	久世 建二
愛知県立芸術大学長	磯見 輝夫
京都市立芸術大学長	潮江 宏三
沖縄県立芸術大学長	宮城 篤正

— 「千住 Art Path 2007」の開催について —

12月15日(土)、16日(日)の2日間にわたり、音楽学部音楽環境創造科の学生たちによるオープンプロジェクト「千住 Art Path 2007」が開催された。

これは、同科の必修実践授業の研究成果を発表する場で、今年は「これ、ゼンブみてほしい。」をタイトルに掲げ、音楽制作、録音音響、舞台作品、環境芸術、文化研究などさまざまな角度から、音楽を中心とした芸術とそれを取り巻く環境にアプローチした。また、学生個人、グループによる作品展示・研究発表のほか、一ノ瀬響氏(作曲家)と金沢健一氏(美術家)をゲストに招いたライブパフォーマンスや公開録音、シンポジウム『文化生産者は「格差社会論」をどう考えるか』など様々な企画が催された。

— 井野アーティストヴィレッジの開設について —

12月24日(月・祝)、井野アーティストヴィレッジ開所式が行われた。これは、本学と取手市との連携事業として、独立行政法人都市再生機構(UR都市機構)の協力により、茨城県取手市井野団地内にあるショッピングセンター一棟を改修して、若い芸術家のための共同アトリエを開設したもの。併せて、第1期参加メンバーによるオープニング作品展が、22日から24日まで同ヴィレッジにて開催された。

本事業では、大学卒業後、制作活動の拠点確保の難題に直面する若手アーティストに対して、井野団地のシャッター店舗7戸を低額な賃料で共同アトリエとして提供し、さらに、本学もその1戸の住人となって、アーティスト同士のみならず、住民にとっても魅力的な交流と発見の場所となるよう様々な活動を展開していくとしている。

本学は、先に宮田亮平副学長(当時)の呼びかけにより、地方自治体との連携による「芸術家村構想」を立ち上げて、「いかにして地域住民や地方公共団体などと連携して、芸術家が住まい、制作し、創造的な活動を行なうための環境を形成していかれるのか」といった課題を検討してきており、本事業も、こうした経緯の中で取手市に提案し、市と大学の連携事業として実現の運びとなったもの。



— 平成19年の掲載新聞記事等について —

◇ 新聞掲載記事 ◇

掲載日	記事名	掲載新聞	記事内容の概要
2007年1月8日	私を導くあのイルカ	朝日朝刊	宮田学長記事、上京時の想い等
2007年1月18日	産学で鮮やか食器	朝日朝刊	チャイナペインティングの美展紹介記事
2007年1月20日	「パリへー洋画家たちの百年の夢」展	日経朝刊	展覧会紹介記事（年間行事）
2007年1月25日	版画家の野田哲也氏が退官を記念して展覧会	毎日夕刊	展覧会紹介記事
2007年2月3日	2007年国公立大学出願率状況	読売朝刊	2007年国公立大学出願率状況
2007年3月7日	名建築を訪ねる 旧東京音楽学校奏楽堂	東京朝刊	旧奏楽堂保存運動
2007年3月13日	東京芸大助教授「教授がパワハラ」慰謝料求め提訴	読売朝刊	芸大助教授がパワハラを理由に大学を提訴
2007年3月13日	パワハラ主張 助教授が提訴 東京芸大「授業禁止」	東京朝刊	芸大助教授がパワハラを理由に大学を提訴
2007年3月17日	東京芸術大学創立120周年展 パリへー洋画家たち百年の夢	日経朝刊	展覧会紹介記事
2007年3月26日	”岡倉天心”の学長が祝「字」	東京夕刊	卒業式記事
2007年3月27日	雑記帳	毎日朝刊	卒業式記事
2007年3月27日	「未来の巨匠」今から探して	朝日朝刊	藝大アートプラザ大賞記事
2007年3月27日	芸大生卒業作品「区長賞」を授与	東京朝刊	卒業制作作品台東区長賞授賞式
2007年4月5日	ニッポン号壁画ー東京芸大生が描く	毎日朝刊	芸大生による壁画制作
2007年4月7日	第1回芸大アートプラザ大賞展	東京朝刊	藝大アートプラザ大賞記事
2007年4月19日	「洋画展「パリへ」きょうから開催	日経朝刊	展覧会紹介記事
2007年4月21日	パリへー洋画家たちの百年の夢 浅井忠の代表作彩る	日経朝刊	展覧会紹介記事
2007年5月7日	「グリーグ&シベリウス」の芸大企画	毎日夕刊	演奏会紹介記事
2007年5月8日	北野教授らのゼミ一期生”デビュー”	東京夕刊	映画専攻修了制作展紹介記事
2007年5月9日	芸大ブランド油絵の具発売	読売朝刊	油絵の具「油一」の発表、発売
2007年5月17日	黒田清輝から戦後まで	読売朝刊	展覧会紹介記事
2007年5月19日	名監督の弟子第1作公開	朝日夕刊	映画専攻修了制作展紹介記事
2007年5月22日	デザイナーに経営指南 芸大に新講座経産省が支援	日経朝刊	新講座開設に経済産業省から資金援助
2007年6月6日	「ペール・ギュント」音楽劇版	朝日夕刊	演奏会「ペール・ギュント」紹介記事
2007年6月16日	藝大フィルハーモニア定期「ペール・ギュント」	東京朝刊	演奏会「ペール・ギュント」紹介記事
2007年6月18日	逍遥の「実験」に再挑戦 ワグナーに対抗の「新曲浦島」全幕を初上演	朝日夕刊	新曲『浦島』紹介記事
2007年6月20日	「金刀比羅宮 書院の美」展	朝日朝刊	展覧会紹介記事
2007年6月28日	国立大寄付集め特典勝負	朝日夕刊	芸大フレンズ紹介記事

2007年6月29日	「金刀比羅宮 書院の美」展	朝日朝刊	展覧会紹介記事
2007年7月3日	金刀比羅宮展準備進む	朝日夕刊	展覧会紹介記事
2007年7月4日	「金刀比羅宮 書院の美」展 参拝の庶民生き生き	朝日朝刊	展覧会紹介記事
2007年7月6日	熱いケータイ映画	朝日夕刊	携帯電話映画祭記事、藤幡教授インタビュー
2007年7月7日	こんぴらさん書院の美再現	朝日夕刊	展覧会紹介記事
2007年7月9日	東京芸大 120年企画「コンクールの華」	毎日夕刊	演奏会紹介記事
2007年7月11日	「金刀比羅宮 書院の美」展 現地地の10部屋を再現	日経夕刊	展覧会紹介記事
2007年7月14日	大学出版会 新設ラッシュ	日経朝刊	大学出版会紹介記事、藝大出版会に言及
2007年7月14日	金刀比羅宮の美、若冲の障壁画	朝日夕刊	展覧会紹介記事
2007年7月18日	「金刀比羅宮 書院の美」展 若冲の花 圧倒される空間	朝日朝刊	展覧会紹介記事
2007年7月22日	室内再現、常識破る展示	朝日朝刊	展覧会紹介記事
2007年8月1日	「金刀比羅宮 書院の美」展 構図ユニーク、13羽の白鷺	朝日朝刊	展覧会紹介記事
2007年8月1日	「金刀比羅宮 書院の美」展	毎日朝刊	展覧会紹介記事
2007年8月3日	東京芸大教授が院生にセクハラ	読売朝刊	教授への懲戒処分記事
2007年8月3日	セクハラ芸大教授停職	東京朝刊	教授への懲戒処分記事
2007年8月3日	芸大教授セクハラで停職	日経朝刊	教授への懲戒処分記事
2007年8月3日	東京芸大院教授セクハラで処分	朝日朝刊	教授への懲戒処分記事
2007年8月3日	セクハラで東京芸大教授停職	毎日朝刊	教授への懲戒処分記事
2007年8月15日	「自画像の証言」展/「浜田知明展」	朝日夕刊	展覧会紹介記事
2007年8月16日	「金刀比羅宮 書院の美」展 本物との関係 考察の時期	読売朝刊	展覧会紹介記事
2007年8月31日	東京芸大設立120年 学生、 神輿作りに熱	東京朝刊	芸術祭紹介記事
2007年9月7日	創作みこし出番待つ	朝日朝刊	芸術祭紹介記事
2007年9月8日	「自画像の証言」展	東京朝刊	展覧会紹介記事
2007年9月14日	携帯で撮影した作品 映画祭を横浜で ソフトバンクと東京芸大	日経朝刊	映画祭「ポケットフィルム・フェスティバル」紹介記事
2007年9月18日	アニメは学問 国立大お墨付き	産経朝刊	アニメーション専攻開設記事
2007年10月3日	東京芸大が開発 明治の絵の具ヒント 鮮やか30色	朝日夕刊	油絵具「油一」紹介記事
2007年10月9日	天心幻のオペラ復活	産経朝刊	岡倉天心オペラ「白狐」上演紹介記事
2007年10月10日	日本画の修復技術紹介	東京朝刊	「日本画の謎を解く」展紹介記事
2007年10月11日	日本絵画の技法 研究紹介 上野 東京芸大大学院が企画展	朝日朝刊	「日本画の謎を解く」展紹介記事
2007年10月11日	美術館への招待 東京芸大 大学美術館	東京朝刊	美術館と収蔵作品紹介記事
2007年10月17日	伝統、未来 交差する浅草	東京朝刊	彫刻展「時空の街」紹介記事
2007年10月18日	携帯撮影の動画映画に	毎日朝刊	ポケットフィルム・フェスティバル関連記事
2007年10月19日	羽子板 芸大テイスト	朝日朝刊	デザイン科学生の羽子板デザイン関連記事
2007年10月20日	芸大に発信力	朝日朝刊	藝大出版会紹介記事

2007年10月20日	区内6カ所で現代アート	毎日朝刊	サスティナブル・アートプロジェクト 2007 紹介記事
2007年10月21日	現代アート各所に出現	朝日朝刊	上野タウンアートミュージアム各イベ ント紹介記事
2007年10月23日	「ものづくり」芸大とタッグ	朝日朝刊	TASK プロジェクト紹介記事
2007年10月23日	芸大付図書館貴重な資料展	朝日夕刊	「藝大をいどった人々」展紹介記事
2007年10月25日	自治体寄付 法の制限 国立大施設呼びたいけど	朝日夕刊	地財特法関連記事。横浜校地の紹介も。
2007年11月2日	名画と光と音の共演	読売夕刊	西洋美術館でのパフォーマンス「光彩時 空'07」 紹介記事
2007年11月4日	アート名地下金庫	産経朝刊	日銀地下金庫での展覧会紹介記事
2007年11月7日	芸大、丸ビルをアートに	朝日朝刊	「藝大アーツ イン 丸の内」 紹介記事
2007年11月7日	「岡倉天心ー芸術教育の歩 み」展	朝日夕刊	「岡倉天心ー芸術教育の歩み」 紹介記事
2007年11月18日	「マンガ学」大学席卷中	朝日朝刊	相次いで大学に開設されるマンガ・アニ メ専攻
2007年11月20日	子どもをめぐる芸術環境考 える	朝日朝刊	「芸術と教育」シンポジウム紹介記事
2007年11月23日	幻のオペラ「白狐」上演	朝日朝刊	オペラ「白狐」 紹介記事
2007年11月25日	宇宙に思いはせ粘土でひと がた	朝日朝刊	「地球と宇宙を結ぶワークショップ」紹 介記事
2007年11月27日	芸術潜る	朝日朝刊	日銀地下金庫での展覧会紹介記事
2007年11月29日	幻のオペラ上演	毎日朝刊	オペラ「白狐」 紹介記事
2007年12月3日	韓国映画界 持久力に課題	読売朝刊	韓流後の韓国映画をめぐる動向。映像研 究科の日韓共同映画制作にも言及。
2007年12月3日	初の「ケータイ映画祭」	東京夕刊	ポケットフィルム・フェスティバル関連 記事
2007年12月5日	東京芸大大学院にアニメ専攻	読売朝刊	アニメ専攻開設記事
2007年12月5日	芸大大学院にアニメ専攻	毎日朝刊	アニメ専攻開設記事
2007年12月5日	東京芸大にアニメ専攻	日経朝刊	アニメ専攻開設記事
2007年12月5日	東京芸大にアニメ専攻	産経朝刊	アニメ専攻開設記事
2007年12月5日	東京芸大がアニメ専攻	東京朝刊	アニメ専攻開設記事
2007年12月6日	日本初の携帯映画祭開催	毎日朝刊	ポケットフィルム・フェスティバル関連 記事
2007年12月7日	” 幻のオペラ” あす上演	朝日朝刊	オペラ「白狐」 紹介記事
2007年12月7日	今年も光り輝く「あばけ煙 突」	朝日朝刊	千住「あばけ煙突」 関連記事
2007年12月8日	足立舞台の芸大アート	朝日朝刊	千住アートパス関連記事
2007年12月8日	日本初の携帯映画祭が開幕	毎日朝刊	ポケットフィルム・フェスティバル関連 記事
2007年12月11日	ポケットフィルム・フェスティ バル閉幕	毎日朝刊	ポケットフィルム・フェスティバル関連 記事
2007年12月13日	芸大メサイア 57 回目調べ 響く	朝日朝刊	芸大メサイア記事
2007年12月13日	個性あふれる芸大アート	産経朝刊	千住アートパス関連記事
2007年12月13日	国公立五芸大が連携協定	日経朝刊	五芸大連携協定関連記事
2007年12月18日	大学 地域越え連携	日経朝刊	五芸大連携協定関連記事
2007年12月24日	東京芸大 08 年度から「ア ニメ専攻」	朝日朝刊	アニメ専攻開設記事
2007年12月28日	芸大 120 周年で来月音楽祭 音響研究室が企画展	朝日朝刊	創立 120 周年記念音楽祭関連記事

— 職員研修 —

- 1 研修名 : 「分限処分・懲戒処分」実務研修会
期 間 : 平成19年12月3日
主 催 : 財団法人日本人事行政研究所
会 場 : 日本私立学校振興・共済事業団
参加者 : 土肥 清子

- 2 研修名 : 国立大学法人総合損害保険「賠償事例研究会」について
期 間 : 平成19年12月6日
主 催 : 有限会社国大協サービス
会 場 : 学術総合センター
参加者 : 田野邊和也

- 3 研修名 : 平成19年度関東・甲信越地区国立大学法人等係長研修
期 間 : 平成19年12月10日～平成19年12月12日
主 催 : お茶の水大学・電気通信大学
会 場 : 国立オリンピック記念青少年総合センター
参加者 : 荒井 竜一、吉野 範子

- 4 研修名 : 平成19年度障害者生活相談員資格所得講習会
期 間 : 平成19年12月11日
主 催 : 独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構
会 場 : 日本工業倶楽部会館
参加者 : 丸山 純一、土肥 清子

- 5 研修名 : 大学、独法の人事担当者の実務に役立つ労働法セミナー（8回）
期 間 : 平成19年12月21日
主 催 : 株式会社シー・イー・アイ
会 場 : ちよだプラットフォームスクウェア
参加者 : 丸山 純一、田野邊和也

- 6 研修名 : 東京芸術大学事務職員パワーポイント研修（入門編）
期 間 : 平成19年12月25日～平成19年12月26日
主 催 : 総務課職員係
会 場 : 東京芸術大学 芸術情報センター
参加者 : 44名

関係法令等

法令番号	事 項	官 報 登 録 年 月 日
文部科学省令 第37号	武力紛争の際の文化財の保護に関する法律施行規則	平成19年12月10日 号外第281号
政令第362号	学校教育法等の一部を改正する法律の施行期日を定める政令	平成19年12月12日 号外第283号
政令第363号	学校教育法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係政令の整備に関する政令	平成19年12月12日 号外第283号
政令第380号	麻薬、麻薬原料植物、向精神薬及び麻薬向精神薬原料を指定する政令の一部を改正する政令	平成19年12月19日 号外第298号

学内規則等

◎東京芸術大学大学院学則等の一部を改正する学則等の制定について

(改正理由)

学校教育法が改正され、改正法は、学校教育法の学校種の規定順の変更に伴う大幅な条ずれ等を内容としており、また、同時に学校教育法施行規則が改正されるため、同法等を引用している本学規則の条文整備を行う。

(改正学則等)

東京芸術大学大学院学則
 東京芸術大学名誉教授称号授与規則
 東京芸術大学受託研究員規則
 東京芸術大学外国人受託研修員規則
 東京芸術大学個別入学資格審査に関する実施要項

(審議経過)

平成19年12月11日 事務協議会

○東京芸術大学個別入学資格審査に関する実施要項の一部を改正する要項 新旧対照表

新	旧
<p>○東京芸術大学個別入学資格審査に関する実施要項</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>1. 個別審査の申請を行うことのできる者 学校教育法施行規則第150条第1号から第6号の規定に該当しない者で、次のいずれにも該当する者とする。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p style="text-align: center;"><u>附 則</u></p> <p style="text-align: center;"><u>この規則は、平成19年12月26日から施行する。</u></p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>(別紙1) 学校教育法施行規則第150条第7号(東京芸術大学学則第59条第8号)の規定に基づき、 年度 東京芸術大学学部一般選抜入学試験を受験したいので、下記書類を添付し入学資格認定について申請します。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>	<p>○東京芸術大学個別入学資格審査に関する実施要項</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>1. 個別審査の申請を行うことのできる者 学校教育法施行規則第69条第1号から第6号の規定に該当しない者で、次のいずれにも該当する者とする。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p>(別紙1) 学校教育法施行規則第69条第7号(東京芸術大学学則第59条第8号)の規定に基づき、 年度 東京芸術大学学部一般選抜入学試験を受験したいので、下記書類を添付し入学資格認定について申請します。</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>

○東京芸術大学名誉教授称号授与規則の一部を改正する規則 新旧対照表

新	旧
○東京芸術大学名誉教授称号授与規則	○東京芸術大学名誉教授称号授与規則
(趣旨)	(趣旨)
第1条 この規則は、学校教育法第106条の規定に基づく東京芸術大学名誉教授（以下「名誉教授」という。）の称号を授与する場合の選考の基準及び手続きその他必要な事項について定めるものとする。	第1条 この規則は、学校教育法第68条の3の規定に基づく東京芸術大学名誉教授（以下「名誉教授」という。）の称号を授与する場合の選考の基準及び手続きその他必要な事項について定めるものとする。
(略)	(略)
<u>附 則</u>	
この規則は、平成19年12月26日から施行する。	

○東京芸術大学受託研究員規則の一部を改正する規則 新旧対照表

新	旧
○東京芸術大学受託研究員規則	○東京芸術大学受託研究員規則
(略)	(略)
(資格)	(資格)
第4条 研究員として受け入れることができる者は、現職技術者等であって、学校教育法（昭和22年法律第26号）第102条本文で定める大学院に入学することのできる者又は、本学がこれらに準ずる学力があると認めた者とする。	第4条 研究員として受け入れることができる者は、現職技術者等であって、学校教育法（昭和22年法律第26号）第67条本文で定める大学院に入学することのできる者又は、本学がこれらに準ずる学力があると認めた者とする。
(略)	(略)
<u>附 則</u>	
この規則は、平成19年12月26日から施行する。	

○東京芸術大学外国人受託研修員規則の一部を改正する規則 新旧対照表

新	旧
○東京芸術大学外国人受託研修員規則	○東京芸術大学外国人受託研修員規則
(略)	(略)
(資格)	(資格)
第2条 受託研修員となることができる者は、機構が開発途上国から招致する研修員であって、学校教育法（昭和22年法律第26号）第83条に定める大	第2条 受託研修員となることができる者は、機構が開発途上国から招致する研修員であって、学校教育法（昭和22年法律第26号）第52条に定める大

学を卒業した者又は、本学がこれに準ずる学力があると認めたとする。

(略)

附 則

この規則は、平成19年12月26日から施行する。

学を卒業した者又は、本学がこれに準ずる学力があると認めたとする。

(略)

○東京芸術大学大学院学則の一部を改正する学則 新旧対照表

新	旧
○東京芸術大学大学院学則 (略)	○東京芸術大学大学院学則 (略)
<p>(博士後期課程の修了要件)</p> <p>第19条 博士後期課程の修了要件は、修士課程を修了後、博士後期課程に3年以上在学し、10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文等の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、極めて優れた研究業績を上げたと研究科委員会が認めた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>2 前条ただし書きの規定による在学期間で修士課程を修了した者の当該博士後期課程の修了要件は、修士課程における在学期間に3年を加えた期間以上在学し、10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文等の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、極めて優れた研究業績を上げたと研究科委員会が認めた者については、修士課程における在学期間を含め3年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>3 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第156条の規定により、大学院への入学資格があるものとして、博士後期課程に入学した者の修了要件は、大学院に3年以上在学し、10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文等の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、極めて優れた研究業績を上げたと研究科委員会が認めた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。</p>	<p>(博士後期課程の修了要件)</p> <p>第19条 博士後期課程の修了要件は、修士課程を修了後、博士後期課程に3年以上在学し、10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文等の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、極めて優れた研究業績を上げたと研究科委員会が認めた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>2 前条ただし書きの規定による在学期間で修士課程を修了した者の当該博士後期課程の修了要件は、修士課程における在学期間に3年を加えた期間以上在学し、10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文等の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、極めて優れた研究業績を上げたと研究科委員会が認めた者については、修士課程における在学期間を含め3年以上在学すれば足りるものとする。</p> <p>3 学校教育法施行規則(昭和22年文部省令第11号)第70条の2の規定により、大学院への入学資格があるものとして、博士後期課程に入学した者の修了要件は、大学院に3年以上在学し、10単位以上を修得し、かつ、必要な研究指導を受けた上、博士論文等の審査及び試験に合格することとする。ただし、在学期間に関しては、極めて優れた研究業績を上げたと研究科委員会が認めた者については、1年以上在学すれば足りるものとする。</p>
(略)	(略)
<p>(入学資格)</p> <p>第25条 修士課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。</p> <p>(1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第83条に</p>	<p>(入学資格)</p> <p>第25条 修士課程に入学することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。</p> <p>(1) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第52条に</p>

<p>規定する大学を卒業した者 (2) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第104条第4項の規定により学士の学位を授与された者</p> <p style="text-align: center;">(略)</p> <p style="text-align: center;"><u>附 則</u></p> <p>この学則は、平成19年12月26日から施行する。</p>	<p>規定する大学を卒業した者 (2) 学校教育法(昭和22年法律第26号)第68条の2第4項の規定により学士の学位を授与された者</p> <p style="text-align: center;">(略)</p>
---	--

◎東京芸術大学音楽学部国際対応委員会要項の制定について

(制定理由)

音楽学部の国際交流に関する審議を行うため、音楽学部国際対応委員会に関する所要の事項を定める。

(審議経過)

平成19年11月14日 音楽学部国際対応委員会
平成19年12月13日 音楽学部教授会

○東京芸術大学音楽学部国際対応委員会要項

平成19年12月13日制定

(設置)

第1条 東京芸術大学音楽学部教授会規則第7条の規定に基づき、音楽学部教授会に国際対応委員会(以下「委員会」という。)を置く。

(目的)

第2条 この要項は、委員会の組織及び運営の方法その他必要な事項について定める。

(定義)

第3条 この要項において、「学科等」とは、学部の各学科及び学科に含まれる各専攻、大学院音楽研究科の各専攻、音楽研究センター、言語・音声トレーニングセンター、演奏芸術センターをいう。

(審議事項)

第4条 委員会は音楽学部が推進する国際交流に関し、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 基本方針等の策定に関すること
- (2) 芸術国際交流協定等に関すること
- (3) 本学芸術国際交流基金等による、学科等及び教員が実施する事業の支援に関すること
- (4) その他委員会が必要と認めた事項に関すること

(組織)

第5条 委員会の委員は、教授会構成員のうち、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 学部長
- (2) 教育研究評議会評議員
- (3) 理事室である国際交流室の室員
- (4) その他学部長が指名する者

(座長)

第6条 委員会に座長を置き、委員会の委員の中から学部長の指名により定める。

- 2 座長は、委員会を招集し、その議長となる。
- 3 座長に事故あるときは、座長があらかじめ指名した者が、その職務を代行する。

(委員会)

第7条 委員会は委員の3分の2以上の出席によって成立し、議事は、出席した委員の過半数の賛成をもって決するものとする。

(委員以外の者の出席)

第9条 委員会において必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求めて、その意見を聴くことができる。

(庶務)

第10条 委員会の庶務は、音楽学部庶務係において処理する。

附 則

この要項は、平成19年12月13日から施行し、平成19年4月1日から適用する。

諸 会 議

— 事 務 局 —

◎保健管理センター運営委員会

平成19年12月3日（月）

〔議 題〕

1. 平成20年度学生定期健康診断の日程について
2. 麻疹予防について
3. 大学のメンタルヘルスの状況について
4. 保健師・看護師・ヘルスキーパー・カウンセラーについて

◎役員会

平成19年12月6日（木）

〔議 題〕

1. 国公立五芸術大学連携協定（案）について

〔理事室等活動報告〕

1. 理事（教育担当）
2. 理事（研究担当）
3. 理事（総務担当）
4. 理事（学長特命担当）
5. 学長特命（記念事業担当）
6. 学長特命（国際交流担当）

〔報告及び連絡事項〕

1. 国立大学協会第3回臨時総会について
2. 東京芸術大学大学院映像研究科修士課程アニメーション専攻の設置について
3. 平成20年度夏季休日について
4. 「岡倉天心—芸術教育の歩み—」展の終了について
5. 東京芸術大学創立120周年記念事業募金の受入状況について
6. その他

◎学生支援室留学生部会

平成19年12月6日（木）

〔議 題〕

1. 平成20年度国内採用による国費外国人留学生（研究留学生）の推薦について
2. 国費外国人留学生の奨学金支給期間延長申請者の申請について

◎国際交流室

平成19年12月14日（金）

〔議 題〕

1. 日中韓芸術大学国際交流事業（創立120周年記念事業海外拠点形成事業）の総括について
2. 国立大学の定員超過を抑制する仕組みの導入について
3. 大学教育の国際化加速プログラム（海外先進研究実践支援）について
4. 大学英語名称の変更に伴う取り扱いについて
5. 平成19年度年度計画進捗状況について

〔報告及び連絡事項〕

1. 中国美术学院（中国）創立80周年記念行事学長招待について
2. 芸術国際交流協定の締結について
3. 中央音楽学院（中国）からの本学訪問について

◎企画・評価室

平成19年12月18日（火）

〔議 題〕

1. 学長裁量経費実施報告書について
2. 「平成18年度に係る業務の実績に関する評価結果の課題」の改善実行計画書
3. 次期中期目標・中期計画期間に向けての意見交換について
4. 中期目標期間の評価への対応について
5. その他

◎教育研究評議会

平成19年12月20日（木）

〔議 題〕

1. 教員の人事計画について
2. 教員の採用について
3. 教員の任期更新について
4. 招聘教授の招聘について
5. 平成20年度67歳を超える非常勤講師の委嘱について

〔報告及び連絡事項〕

1. 国公立五芸術大学連携協定について
2. 音楽学部長候補者について
3. 大学院映像研究科長候補者の選考について
4. 東京芸術大学創立120周年記念事業募金委員会募金配分部会（第2回）について
5. 東京芸術大学創立120周年記念事業募金の受入状況について
6. 海外渡航について
7. その他

◎役員会

平成19年12月20日(木)

〔議題〕

1. 平成19年人事院勧告への対応について

〔理事室等活動報告〕

1. 理事(教育担当)
2. 理事(研究担当)
3. 理事(総務担当)
4. 理事(学長特命担当)
5. 学長特命(記念事業担当)
6. 学長特命(国際交流担当)

〔報告及び連絡事項〕

1. 国立五芸術大学連携協定について
2. 教育研究評議会について
3. 東京芸術大学創立120周年記念事業募金委員会募金配分部会(第2回)について
4. その他

— 美術学部 —

◎美術学部人事委員会

平成19年12月5日(水)

〔議題〕

1. 教員の人事について

◎美術学部運営委員会

平成19年12月5日(水)

〔議題〕

1. 東京芸術大学における大学教員の任期に関する規則の一部を改正する規則(案)及び東京芸術大学美術学部点検・評価委員会規則等の一部を改正する規則等(案)について
2. 奨学寄附金の受入について
3. 平成19年度学長裁量経費の配分について
4. 写真センターの今後について

◎美術学部教務委員会

平成19年12月6日(木)

〔議題〕

1. 学生の身分異動について
2. 平成19年度修士論文等審査委員名一覧について
3. 平成20年度開設科目等の変更について
4. 平成20年度履修案内記載の変更等について
5. 平成19年度67歳を超える非常勤講師の採用について
6. 平成20年度67歳を超える非常勤講師の採用について

7. 平成20年度非常勤講師採用計画表について

◎美術学部入試運営委員会

平成19年12月13日(木)

〔議題〕

1. 平成20年度大学院第1期(修士課程)入学試験個人成績開示について
2. 本学帰国子女の扱いについて
3. 博士入試の語学試験について
4. 学部の前期日程移行について

◎美術学部学生生活委員会

平成19年12月13日(木)

〔議題〕

1. 学内奨学金(俵奨学金)候補者について
2. 外国人留学生の奨学生候補者の推薦について(財団法人長谷川留学生奨学財団)
3. 特別講演について

◎大学院美術研究科委員会

平成19年12月13日(木)

〔協議事項〕

1. 招聘教授の招聘について
2. 学生の身分異動について
3. 平成19年度大学院修士論文等審査委員名一覧について

◎美術学部教授会

平成19年12月13日(木)

〔協議事項〕

1. 東京芸術大学における大学教員の任期に関する規則の一部を改正する規則(案)及び東京芸術大学美術学部点検・評価委員会規則等の一部を改正する規則等(案)について
2. 学生の身分異動について
3. 平成19年度67歳を超える非常勤講師の委嘱について
4. 平成20年度67歳を超える非常勤講師の委嘱について
5. 学内奨学金受給者の推薦について
6. 受託研究の受入について

〔報告事項〕

1. 理事報告
2. 各種委員会等報告
 - 取手校地安全衛生委員会(11月9日)
 - ◆ 学生支援室全学学生支援部会(11月9日)
 - ◇ 保健管理センター運営委員会(12月3日)
 - 学生生活委員会(11月15日)
 - 学生生活委員会(12月13日)
 - ◆ 企画・評価室会議(11月15日)

- ◇ 大学美術館運営委員会 (11月15日)
- ◇ 大学美術館運営委員会 (12月13日)
- ◇ 大学美術館特別展企画会議 (12月4日)
- ◆ 出版局・東京芸術大学出版会会議 (11月22日)
- 卒展運営委員会 (11月22日)
- ◆ 社会連携センター運営委員会 (11月27日)
- ◆ 安全衛生委員会 (11月28日)
- ◆ 藝大アートプラザ企画推進室会議 (11月29日)
- ◆ 藝大アートプラザ企画推進室会議 (12月12日)
- ◆ 施設・環境部会 (11月29日)
- 施設環境・安全衛生委員会 (11月30日)
- 取手校地運営委員会 (11月29日)
- ◆ 学生支援室留学生部会 (12月6日)
- ◇ 芸術情報センター運営委員会 (12月10日)
- ◆ 教育推進室 (兼) F D対策部会 (11月22日)
- 教務委員会 (12月6日)
- ◆ 管理・運営室会議 (11月14日)
- ◆ 管理・運営室会議 (11月21日)
- ◆ 人事・総務部会 (12月10日)
- ◆ 教育研究評議会 (11月15日)
- 人事委員会 (12月5日)
- 運営委員会 (12月5日)
- 入学試験運営委員会 (12月13日)
- 大学院研究科運営委員会 (11月12日)
- ◆ 予算調整会議 (12月5日)
- ◆ 創立120周年記念事業実行委員会募金配分部会 (12月6日)
- 3. 教員の海外渡航について
- 4. 奨学寄附金の受入について

〔連絡事項〕

1. 展覧会のご案内
2. 委員の選出について
3. その他

— 音 楽 学 部 —

◎音楽学部連絡協議会

平成19年12月6日 (木)

〔議題〕

1. 学生定員の適正配分・教員の適正配置について
2. その他

◎音楽学部学生生活委員会

平成19年12月13日 (木)

〔議題〕

1. 平成19年度独立行政法人日本学生支援機構奨学生「特に優れた業績による返還免除」制度について

〔報告及び連絡事項〕

1. 平成19年度独立行政法人日本学生支援機構全国学生指導研究集会について

◎音楽学部教務委員会・学位委員会

平成19年12月13日 (木)

<教務委員会>

〔審議事項〕

1. 平成19年度音楽学部特別講座の実施について
2. 音楽学部アドミッション・ポリシー (案) について
3. 音楽学部規則の一部を改正する規則 (案) について
4. 音楽学部 (大学院音楽研究科を含む) 開設授業公欠の承認基準 (案) の一部を改正する基準について
5. カリキュラム改訂について
6. 早期卒業の骨子案について
7. 平成20年度学内演奏会日程 (案) について
8. 平成20年度卒業試験公開演奏会日程及びG・P日程 (案) について
9. 平成19年度後期学科試験の実施について
10. 学生の公欠について
11. 伝染病罹患者に係る授業日数の取扱い及び手続きについて

〔依頼事項〕

1. 平成20年度学事暦 (案) について
2. 平成20年度授業時間割表の校正について
3. 平成20年度お茶の水女子大学との単位互換授業科目について
4. 平成19年度後期・通年科目の成績について
5. 開設科目の廃止について

〔報告事項〕

1. 卒業試験公開演奏の撮影について
2. 音楽学部特別講座の実施報告について

<学位委員会>

〔審議事項〕

1. 大学院音楽研究科アドミッション・ポリシー (案) について
2. 課程博士学位論文等審査委員会の審査結果について
3. 課程博士学位論文等予備審査会の結果について
4. 課程博士学位論文等審査委員会の設置について
5. 「学位本審査の繰上げに関する申請」の取り下げについて
6. 平成20年度お茶の水女子大学大学院及び東京外国語大学大学院との単位互換授業科目について
7. 平成20年度大学院 (修士課程) 学位論文等の審

査について

8. 平成20年度大学院音楽研究科（修士課程）学位
審査会演奏日程及びG・P日程（案）について
9. 博士リサイタルの実施について

◎音楽学部芸術活動推進委員会

平成19年12月13日（木）

〔議 題〕

1. 平成20年度旧東京音楽学校奏楽堂デビューコン
サートの推薦学生について
2. 演奏依頼
3. 平成20年度旧東京音楽学校奏楽堂木曜コンサ
ートの日程（案）について
4. 音源使用願について
5. 奏楽堂でのコンサートのテレビ放映の可能性に
ついて
6. 藝大主催演奏会の演奏録音物に関する取り扱
いについて

〔報告及び連絡事項〕

1. 各科・学生オーケストラ運営委員会・チェンバ
ーオーケストラ運営委員会・管弦楽研究部・オペ
ラ研究部・音研センター・演奏芸術センター報告
2. 平成20年度音楽学部定期演奏会等一覧について
3. その他

〔演奏会終了報告〕

1. ファミリーコンサート「親子で歌いっごう！日
本のうた100選」
2. 音楽音響研究会
3. 平成19年度取手市教育委員会主催ミニコンサート
4. 東京藝大表参道フレッシュコンサート
5. 平成19年度取手市小・中学校と交流事業
6. クリスマス&メサイア公演
7. 第57回チャリティーコンサート「メサイア」
8. 奏楽堂演奏会

◎音楽学部教授会（含・研究科委員会）

平成19年12月13日（木）

〔議 題〕

1. 東京芸術大学音楽学部長候補者選挙の投票結果
について
2. 寄附金等の受け入れについて
3. 受託研究の受け入れについて
4. 課程博士の学位授与について
5. 教員の採用人事について
6. 教員の採用について
7. 67歳を越える非常勤講師の採用について
8. 規則の制定について

〔報 告〕

- 理事
- 学部長
運営会議（運営・人事）（11月22日）
連絡協議会（11月15日、21日、12月6日）
管理運営室会議（11月14日、21日）
管理運営室人事総務部会（12月10日）
その他
- 評議員
教育研究評議会（11月15日）
- 各種委員会
 1. 運営会議（入試）（11月22日）
 2. 教務・学位委員会（11月22日）（12月13日）
 3. 芸術活動推進委員会（11月22日）（12月13
日）
 4. 学生生活委員会（12月13日）
 5. 施設整備安全衛生委員会（12月13日）
 6. 入試制度検討委員会（11月15日）
 7. 国際対応委員会（11月14日）
 8. 管弦楽研究部運営委員会（11月8日）
 9. 学生オーケストラ運営委員会（11月30日）
 10. オーケストラ間調整委員会（11月20日）
 11. 教育担当理事所掌室会議
 12. 研究担当理事所掌室会議
 13. 総務担当理事所掌室会議
 14. 上野校地安全衛生委員会（11月28日）
 15. 藝大アートプラザ企画推進室会議（11月29日、
12月12日）
 16. 芸術情報センター運営委員会（12月10日）
 17. 大学美術館運営委員会（11月15日、12月13日）
 18. 保健管理センター運営委員会（12月3日）
- 附属音楽高等学校長
- 言語・音声トレーニングセンター長
- 演奏芸術センター長

〔報告及び連絡事項〕

1. 「平成20年度大学入試センター試験追試験試験
監督」の選出について
2. 平成20年度大学入試センター試験追試験に伴う
リスニングテスト予行演習等
3. 平成20年度大学入試センター試験追試験実施に
伴う監督者説明会
4. 東京芸術大学創立120周年記念音楽祭 藝大120
年をふり返って
5. 新年賀詞交換会
6. ソフトウェアの適正な管理について
7. 教員・学生の展覧会・演奏会・イベント情報に
ついて
8. 府省共通研究開発管理システム(e-Rad)の運用
開始について

— 大学院映像研究科 —

◎大学院映像研究科教授会

平成19年12月13日（木）

〔議題〕

1. 映像研究科長候補者の選考について
2. 教員の昇任人事について
3. 中期目標期間の業務実績評価に係る報告書等の提出について
4. 平成19年度修士学位申請及び審査委員について
5. 平成20年度研究生募集要項について
6. 国費外国人留学生の受入について
7. 平成20年度学事暦、開設授業科目等について

〔報告及び連絡事項〕

1. アニメーション専攻の設置申請認可について
2. 日韓共同制作映画上映会及びシンポジウムの終了について
3. ポケットフィルム・フェスティバルの終了について
4. 映画専攻「特別講義」の終了について
5. 平成20年度（修士、博士）入学試験について
6. 「年度計画」の提出について
7. ソフトウェアの適正な管理について
8. 府省共通研究開発管理システム（e-Rad）について
9. 教員の海外渡航について

— 大学美術館 —

◎大学美術館運営委員会

平成19年12月13日（木）

〔議題〕

1. 「デッサウのバウハウス」展の入館料について
2. 野村賞選考委員会について
3. 平成20年度美術学部入学者選抜試験における美術館展示室等の借用について
4. その他

〔報告及び連絡事項〕

1. 平成20年度大学美術館展覧会計画（案）
2. 野村賞選考委員会開催時間の変更
3. 「岡倉天心—芸術教育の歩み—」入館者数
4. 「東京芸術大学大学院美術研究科博士審査展」入館者数
5. 「物語の彫刻」〔陳列館〕入館者数
6. 芸大コレクション「田中コレクション展」〔正木記念館〕入館者数

7. その他

— 演奏芸術センター —

◎演奏芸術センター運営委員会

平成19年12月3日（月）

〔議題〕

1. '08年度演奏会予定について
2. リサイタルシリーズについて
3. 奏楽堂の使用について

— 芸術情報センター —

◎芸術情報センター運営委員会

平成19年12月10日（月）

〔議題〕

1. 芸術情報センター教員の任期更新時の再任評価実施要項（案）について
2. 芸術情報センター教員の任期更新希望に係る審査について
3. 芸術情報センター運営委員会等構成員について
4. ネットワークセキュリティポリシーについて
5. ネットワーク人員の要求について
6. 上野—取手間、上野—竹橋間のEthernet回線の更改について
7. 演習授業の増設（非常勤講師人件費の増加）について
8. その他

〔報告及び連絡事項〕

1. 科学研究費の申請について
2. 音楽学部教職科目について
3. その他

— 藝大アートプラザ —

◎藝大アートプラザ企画推進室

平成19年12月12日（水）

〔報告及び連絡事項〕

1. 藝大アートプラザ運営業務報告
2. 平成19年度年度計画の進捗状況等及び平成20年度計画の素案について
3. 学内規則の公開に伴う藝大アートプラザ関係申合せの学外公開について

大学日誌

自 平成19年12月1日 ～ 至 平成19年12月31日

月 日	曜	行 事
12. 3	月	保健管理センター運営委員会、演奏芸術センター運営委員会
4	火	大学院映像研究科アニメーション専攻設置記者発表、東京芸術大学大学院美術研究科博士審査展（～12/16）、第2回藝大アートプラザ大賞入賞作品展（～12/24）
5	水	取手アートパス2007（～12/9）、（美）人事委員会、（美）運営委員会
6	木	役員会、学生支援室留学生部会、（美）教務委員会、（音）連絡協議会
7	金	ポケットフィルム・フェスティバル（～12/9）、「光のおぼけ煙突」点灯式（～1/26）
10	月	「益子義弘展－住景－」（～12/23）、芸術情報センター運営委員会
12	水	国立5芸術大学連携協定書締結、藝大アートプラザ企画推進室
13	木	（美）入試運営委員会、（美）学生生活委員会、大学院美術研究科委員会、（美）教授会、（音）学生生活委員会、（音）教務委員会・学位委員会、（音）芸術活動推進委員会、（音）教授会（含・研究科委員会）、（映）教授会、大学美術館運営委員会
14	金	国際交流室
15	土	「千住 Art Path 2007」（～12/16）
18	火	企画・評価室
20	木	教育研究評議会、役員会
24	月	井野アーティストヴィレッジ開所式